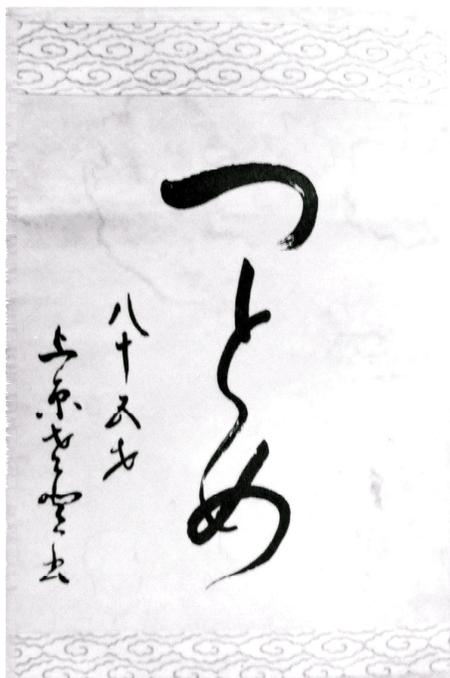


# かさおか

発行所  
天理教笠岡大教会

かさおか編集掛  
笠岡市用之江377  
郵便番号714-0066  
(0865)  
電話 66-1311  
FAX 66-1314



初代様直筆の掛軸 (作備分教会所蔵)

をやの思いを にをいかけ、

<sup>うちうち</sup>  
内治に心を配り おたすけに誠の心を尽くそう

1. 一歩前進 百万軒
2. おつとめの徹底とひのきしん
3. 機を逃さず おさづけの取次

# 本部婦人会総会

四月十九日第八十六回婦人会総会が、午前九時半より本部東礼拝場で開催されました。例年は、本部長中庭で開催されますが、今回は、雨天の為、会場が変更されたのです。

東礼拝場に入れない方々は、北と西の礼拝場へ、又、東西礼拝場の階下、回廊にもあふれ、会員約五万人が参集しました。

その中、私達笠岡支部では、各委員部で、バスや車等を出し、五百余人が参加しました。

正午から、「教祖百二十年祭への歩みの中で」と題して、第二食堂・第三食堂・東講堂・附属高校講堂・親里高校講堂の五会場で講演が行なわれ、一万四百三十人の会員が、聞かしてもらいました。又、第三食堂では、笠岡支部より、亀田山前委員長の高橋たけさんが、話されました。(婦人会常任委員 今川佐智子)



## おぢば管内学生 新入生歓迎会

去る三月二十五日(日)、おぢば管内の学生を対象に、詰所で新入生歓迎会が開催されました。

現在、笠岡につながる学生が、高校・大学・専門学校等、三十名以上、おぢばの学校で学んでいる中、当日は、大学生・医学技術学校生合わせて十四名(内、新入生は十二名)が参加してくれました。

まず、大教会長様は「おぢば」について、おぢばは、親神様のお鎮まり下さる所であり、世界一れたたすけたいという親心あふれた所であると説明され、おぢばで学ぶ学生に、世界一れたたすけたいという親神様の思いを実行する人、たすけたいという思いを持てる人になってほしいと、お話し下さいました。

その後、記念撮影、昼食(ランチバイキング)、ボーリングと、みんなで、楽しいひとときを過ごしました。(学生担当委員長 吉岡誠一郎)

## 実修会 便り



### 素直に、勇んで、地道に

川島郷分教会長 香取 雅人

昨年続き、今年も島根まで出向し、多古浦分教会で開催された「にをいがけ・おたすけ実修会」に参加させていただきました。

「おつとめ」というとても大切で難しいテーマでしたが、参加された方々の反応が良く、私の稚拙な講話にもかかわらずとても熱心に聞いてくださったので、非常にしゃべりやすく、与えられた時間が驚くほど早く過ぎてしまいました。

当日は晴天に恵まれ、実修会に参加された大勢の方々と共に大変気持ち良くにをいがけに歩かせていただきました。

教会の近くには、「加賀藩戸」や「多古の七つ穴」などという日本海に面した風光明媚な観光名所もあり、「どんな所か行って見たいなあ」と、心のどこかに不謹慎な遊び心がふと湧いて来ましたが、気持ちを引き締め、一軒ごとの戸別訪問をさせていただきます。

多古浦分教会は、平成10年に現在地に移転してきたため、当初は地元にも馴染みが薄かったということですが、移転後2年目から地域への全戸にをいがけを心掛け、教会を挙げて取り組んでこられました。

現在では、部内の布教所やよぶく家庭の近辺へのをいがけも夫々の方が責任を持って勤めておられ、毎月100部のチラシを配布されています。私が訪問させていただいた所は教会に隣接する

「北垣」という地区でしたが、日ごろの教会の方々のかめ細かい活動のおかげで、どのお宅を訪問させていただいても非常に気持ちよく応対して下さり、中には「有難うございます」とお礼を言ってお下される方もあり、戸惑うほどでした。

にをいがけ後の練り合いにおきましても、参加された方が大変勇んでおられ、20数名の参加者のうち5名の方が訪問先でおさづけを取り次がせていただいたと喜びいっぱい報告されました。

やはり旬の動き、親の思いに素直に添わせていただくとうとうところに、親神様、教祖からの大きな追い風のご守護を頂戴していると感じざるを得ませんでした。

私どもの教会でも、この時旬の大きなうねりに乗せていただけるよう、地道な日々の活動ときめ細やかな丹精を心掛けていきたいと改めて思わせていただきました。

## 山の中でもにをいがけ

福東分教会 藤井保人

去年に続いて第二回目の実修会をつとめさせて頂きました。今回は「おつとめ」というテーマのもと、勉強させて頂きました。おつとめと言っても幅が広く、これだけというわけにもいかず、他の教理も合さりながら成立っているのであると思えました。

そして、出向当日、不安と緊張の面持ちで当該教会へ行かせて頂きました。いつも以上に参拝に時間をかけて、「神様、宜しく御願います。」と継る思いで三殿を拝ませて頂き、勉強会に臨ませてもらいました。しかしと言いますか、私の未熟さぶりを正直に発揮する結果となり、改めて教理に対する姿勢の足らなさの大きさに、反省と気落ちした次第であります。

その後、二つのグループに分れて、にをいがけに廻らせてもらいました。会長様より「ダムの方へ行かせて貰いましょう。」と言われ、車に向かってのですが、行けども、着けども周りに家らしい建物はなく、それどころか、ますく景色は山深くなる一方で、どうするものかと思っていた処、信者さん方が車から降りるなり早速、ダムを見学を訪れている方へ気軽に話をされている姿を見て、成程、ダムでのにをいがけとはこの事であっ

たのかと思い、後を追うようにして声掛けをさせてもらいました。

匂いがけとは住宅を一軒々々歩くという観念が強いだけに、意外ではありましたが、何も特別なきまりは無く、どこでも、いつでも心一つで神様の御用はさせて頂けるのであると、実感させて頂きました。

又、私のような届かん者に最後までお付き合下された教会の方々に御礼を申し上げる次第であります。誠に有難うございました。



### 実践項目集計 (3月)

百万軒にをいがけ	64,256軒
おさづけのお取次	4,923回
身上事情お願い	985件
提出教会	121ヶ所

# 修養科生の声



## 修養科生活について

芳井分教会 山口晃治

(七五五期 六〇才)

私は、事情から芳井分教会に住み込みさせて頂く事になりました。家は代々仏教でしたので、天理教の事は聞いた事が有る丈で全く何一つ解りませんでした。会長さんのすゝめで修養科へ入学させて頂きました。

最初は不安でいっぱいでした。何しろ今迄した事のない事をするのですから、はたして皆について行けるだろうか？ 無事に卒業出来るだろうか、そう思いつゝ一週間、十日とたち、考えれば、桜の花に迎えられ、そして鯉のぼりに見送られると言う、一年で一番良い季節に巡り会えたものです。毎日、授業とひのきしんをさせて頂いている内に、心もしだいに落ちついて来ました。

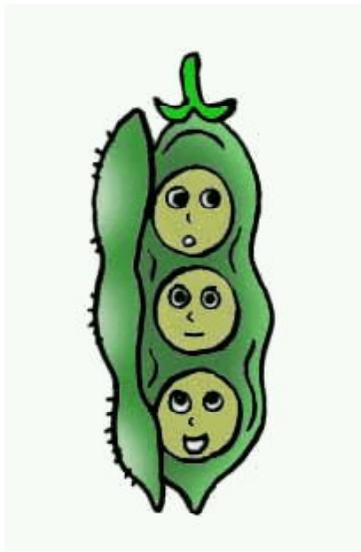
感話の時間には感動し、修養科には、身上・事情をかゝえた人がガンバツテおられるすがたを見て、私も三ヶ月ガンバローと思う様になりました。

その内に友達も次々と出来、お互い助け合いはげまし合いながら毎日を送っています。

気が付けば、余す所一ヶ月となり、今では鳴物もお手ふりも出来るようになりました。教祖の御守護を頂く事が出来たと、感謝して居ます。

ある日、友人から相談を持ち込まれその話を聞くと、自分の若い時と同じ問題でしたので体験談を話した所、数日後にその友人から「山口さんに相談して良かった。問題がうまく解決出来たので、今、御礼参拝に行つて来ました」と言われた時は「あゝ良かった。こんな自分でも人様を助ける事が出来た」と涙が出そうになりました。私の心の入替が少しでも出来たのでしょうか。

後わずかな間に六十年間積もったほこりを少しでも払う事が出来、良きよふぼくになって帰りたい、尚一層勉強とひのきしんに汗を流し、清らかな心で卒業したく思つて居ます。



## 命の大切さ

福声分教会 佐藤昌子

私は、高校を卒業と同時に修養科に出させて頂きましたが、この三ヶ月間は私の人生においても重要なものとなりました。

修養科に入り、生活にも慣れ、楽しく過ごしていた四月の半ば、私のもとに一本の電話が入りました。それは、友達が出直した、というものでした。私はすぐに実家に帰らせて頂き、お通夜とお葬式に出席しました。出直した友達とは中学時代の同級生で、死因は交通事故でした。あまりに突然すぎて、「なぜ彼女なのか」と納得がいかないし、今でも信じたくありません。

私は今回のことで、友達の大切さに気付き、命のはかなさを改めて実感しました。明日の命は本当に分からないということを友達はおしえてくれました。友達のことを聞いた時、人は皆、もう運命が決まっているのか、とすぐ考えました。もし、そうだとしたら、明日死ぬ運命の人が、今日、やりたいことや夢を持ち、それに向けて頑張っている。そんな事悲しすぎます。出直した友達だつてやり残したことがたくさんあるはずです。

生きているということは、あたり前のことではなく、本当に奇跡だと思えます。人の命は一瞬で

## 四月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に会長上原理一慎んで申し上げます

親神様の子供かわいい一条の親心溢れる御守護とお導きを頂いて日々は結構に恙なく生活させて頂いております事は誠に有難く勿体ない極みでございます。特に今は春まっさかり大教会の花も梅から桜へ桜からつじへと咲き替わり緑も日毎に青さを増し草花の芽生えの勢いをそのまま写して心にも勢いをお与え頂き日々は喜びと感謝の気持ち一杯に朝夕に御礼申し上げますと共に御恩報じを念じてたすけ一条の御用を果たすべくにをいがけおたすけにと勤め励ませて頂いております

その中にも今日の吉日はこれの笠岡の理にお許し下された四月の月次祭を執り行なう日柄でございますので只今から今日の日を樂しみに寄り集いました道の子供達と相共におつとめ奉仕者一同喜び心を見かぐらうたに託し声高らかに唱和しつつ勇んで座りづとめてをどりをつとめさせて頂きます。四月十八日の教祖御誕生祭に想いを馳せ尚も勇む皆の真実の状を御覽下さいまして親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて来るべき教祖百二十年祭に向けおぢばでは論達第二号の発布に始まり論達巡教統いて地方講習会そして現在道の先達大会を開催し年祭にふさわしい成人が出来るようにとお導き下さっております。加えて別席に繋がる基礎講座修養科に繋がる三日講習会と次々にこの旬に始められお仕込み下さると共に伏せ込みひのきしんを通して理作りをもお仕込み下さっております。誠に有り難く存じております。その上で一番大事な事はそれらを日々の生活にいかにか活かして行くかという思いから一、一歩前進百万軒 一、おつとめの徹底とひのきしん 一、機を逃さずおさづけの取次の三つの実践項目を揚げて実動に邁進させて頂いております。二年目の今年更なる実動を申し合わせるべく来月は改めて直轄巡教をさせて頂いて笠岡に繋がる皆が心を揃えて一手一つに勤めさせて頂く覚悟でございます

何卒親神様には届かぬながらもどうでもと親心に応えるべく成人の歩みを進める皆の真実誠の心をお受け取り下さいましたすけ一条の上に温かい親心をお現わし下さりたすける方もたすけられる方も共に喜び合ってそして共に成人の歩みを進められますようお導きの程を一同と共に慎んでお願い申し上げます

散ってしまう。そんな中で生きているということ、は奇跡としか言いようがありません。息を吸える、空を見上げられる、温かいと感じることができ、生まれてきて今という時を過ごしている、すべてが奇跡的なことです。こんな大切なことに気付かせてくれた友達には感謝してもしきれません。それに、親神様が、命の大切さをまわりの人々に伝えていきなさいと私におしえてくださったのかも、しみません。悲しいこと、辛いこと、嬉しいこと、楽しいこと、幸せなこと、それは生きているから感じる事ができるのです。他の動物ではない、私たち人間だけが感じる事ができるのです。こんな素晴らしい身体を親神様から貸して頂いていることに日々感謝していかなければならないと気付きました。こう気付くことができたのも、修養科に来ていたからかもしれません。

普通に生活していたら出会うことのなかった人々と修養科では出会うことができます。そして、それぞれに身上や事情をかかえておられました。その方たちと接していて、毎日が勉強になったし、自分自身、成長できたと思います。だからこそ、命について真剣に考えることができました。友達が出直したことは本当に辛いことですが、友達の分まで精一杯生きて幸せになりたいと思います。そして、命の大切さをまわりの人々に伝えていきます。きっと、友達も天国で喜んでくれることを信じて。



## 四代会長様を偲んで

宮本 おふさ

笠岡大教会四代会長様は、丁度私とは同年代で、福山分教会へ御巡教頂く時は、未だお互に若くて、私も接待係としてつとめさせて頂いて居りました。

神殿参拝のあと、福山分教会長夫妻と共に役員、御つとめ奉仕が御挨拶にまいます。その後暫く、茶菓をお召し上がりになり、ホツと肩の荷を下して頂きます。私はいつもの如くお召し替えの準備をして、紋付羽織、袴に着替えて頂くのですが、「一寸足袋をよく見といてヤ」の言葉が発せられるのです。よく考えると、私もおつとめ着の中に入れた筈の足袋を忘れてゐた事があったので、「大教会長様もやはり同じく足袋が心にか、っておいでなのだな」と思っておりました。けれども何時御参拝下さっても、必ず口を開かれる言葉が「足袋見といてヤ」の言葉でした。そのお声が、未だに生々しくて、私の耳の奥に、はっきりと、刻み込まれてゐます。

大教会長様はとてもよくお気がつかれて、その上寛大な心をお持ちになって、私共になる可く心を使はせない様にとのお心使いが伝はってまゐります。

おつとめも、神殿講話も無事終り、落着かれたところで晝食です。いつもおいしい〜と召し上って下さるのですが、十月の御大祭は又別格です。福輝分教会から献饌された松茸をお下げて、急いで七輪に炭火を入れて、アミで焼くのです。

秋の味覚が部屋中に宏がり、松茸の香が臭覚をゆすぶります。三杯酢で召し上って頂くのですが、「おいしいぞ!」「これはうまい!!」と大変喜んで下さるのが嬉しくて、お接待させて頂いたものです。御挨拶に来られた役員さんや、おつとめ奉仕者、青年会婦人会、の人達、夫々に、焼松茸の一切れを、御自分のお手で相手のお口に入れて居られたお姿が、忘れられません。大変親心がおありで、情に厚く、大教会長様の心根を垣間覗かせて頂いた思でした。

もう何十年も前の事でしょうか、私方の部内の福勇分教会へ御巡教下された時の事です。「こんな末端の教会まで、」と一同かたく謹聴してゐる中で、大教会長様は、心をほぐし、講話を柔く、暖い雰囲気の流れる中の神殿講話でした。「広く優しいお心をおかけ下さるのだな」としみく、静聴させて頂くと共に、「大教会長様ともなれば

さきさきまで心を使って下さるのだな」と感じ入ったものでした。晝食は客間と云っても八帖間の古い建物でしたが、御婦人の方達が、次々御挨拶に来られ、お流れを頂戴して、和気あい〜とした中で、唄でも歌おうかと仰言つて下さり、急いで持参して下さった、福広の会長さんのカラオケで、一番に唄はれたのが、古賀正雄作詩作曲の「影をしたいで」でした。――まぼろしの……かげをしたいで――と唄は流れ、みんな唱和しました。――次々と古賀メロデー、美空ひばりさんの歌、(佐渡情話、リングゴ追分け)等々――まるで大教会長さんが傍においてになるのを忘れる程に、一つ心に楽しく歌はせて頂いたのです。「大教会長様はしっとりとしたこんな唄がお好きなのだな」と、暖い安らぎの雰囲気か部屋中を和やかにして下さいます。

時にはきびしく、又優しく暖い親心でつ、まれに一同楽しく嬉しく、胸の中を洗はれる様で、刻々過ぎて行きました。「大教会長様はやはりときどきの場所に合った、教会の成人程度を見計り乍ら、善処して下さいるのだな」と、会長様の御人格と御人徳に心を打たれた次第です。『重い原爆症』を背に負い乍ら、よく頑張つて下さったものだと、心から尊敬し、信服いたしている次第です。「足袋を見といてヤ」のお声が、今だに一番忘れ得ぬ思い出として、懐しく又うら悲しく

よみがえってまゐります。

本年十年祭をおつとめ下さるに当り、在りし日の事ども色々思い浮べ、今一つ私には大きな御恩を頂いております。憩の家から「事情部講師」としての要請にすぐに御推薦をして下さったのも大教会長様でした。「事情部講師」と云つても笠岡大教会では初めての人事で、先輩は居られなくて途方に暮れた日もありましたが、お蔭で十五年間(二期)無事つとめ終えさせて頂きました。憶えば他所では絶対に味はえない事どもを憩の病院で経験させて頂き、大変勉強になりました。そして又笠岡以外の各大教会役員様方の立派な先生方とも、話し合いなり勉強会などさせて頂きました事ども思い合せて、私の全生涯に大きな花を咲かせて頂き、かけがいのない御用と、思ひ出を残させて頂けたのも、大教会長様のおかげでした。こゝに深く厚く御礼を申し上げさせて頂きます。御霊様!ほんとうにありがとうございます。

合掌

(廣町分教会前会長夫人)



▼養徳社発行『陽気』誌五月号、「道柳」より転載

▽今回の課題は「直」、撰六十二句中、笠岡に繋がる教友の方二名、二句が見事撰ばれ掲載されていましてので転載させて頂きます。おめでとうございます。

准秀詠 川島郷分教会前会長 香取敏子

素直さを座右の銘に道を生き、

佳詠 芳阪布教所長 杉原幹夫

天の理が素直に治まる嬉し日々

▼呉市・東濱十三雄さん(福順分教会長)よりの寄稿です。

病喜録のうた

悲惨なりテロに戦争 あちこちで

ヒトの心の 貧しさ思ふ

我学ぶ「上手な戦争 選ぶより

下手な平和の方がまだ良い」

—ある国のことわざ—

病根と戦う事は もうやめた

旅は道づれ 仲良く行こう

はっぴしあわせ笠岡大 詩(かくしん)

一、白き太字の 天理を背中に

背負ってうれしき マイはっぴ

婦人総会 参加のうれしき

今日は おぢばに集いきて

いさんで いさんで ハッピー

二、胸にかがやく 教会名の

笠岡の文字かがやきて マイはっぴ

朝な夕なの ひのきしん

つとめはげもう いそいそと

いさんで いさんで ハッピー

三、ようこそおかえり 八三母屋え

島根広島岡山の友 マイはっぴ

老会長老奥様前会長の

年祭つとめた よろこびに

いさんで いさんで ハッピー

土持ちひのきしん笠岡五日隊

作詞 かくしん(三番以降制愛しました)

一つ 一に土持ち ひのきしん

空に太陽 さんさんと

もっこにおて いそいそと

行き交う友の 笑顔美し

二つ 不思議ふしんの ひのきしん

四月初めの 桜の下で

爽やかな風 一息入れて

持つ土の重さ 心爽やか

# 談話室



## 私の布教日誌

福芦分教会前会長夫人 竹本 久子

身は黒衣にやつせども、

昨日のにしき今日のぼろ

たずぬる里の空しさは

道を説きつ、泣く心

あ、道一條の、夢は、はるか

府中本通り商店街のど真中から、道一條を志し、黒一色のハッピを着て、毎日く匂い掛けに歩き、黒衣のハッピに身をやつして、水戸黄門のこの唄を口ずさみながら、聞いてくれる人もない中から、布教の第一歩が始まり、筆舌にもつくせない日々を、昭和四十二年から三十年通り抜け、会長共々に歩いた道は、長く短く、その結果は、三百人近い用木と立派な神殿建築の御守護を頂きました。朝夕のおつとめを檜の香たごう神殿でつとめさせて頂き、此の上なき喜びの日々を通して頂いております。

すべてを後継者に托して、私自身は匂い掛けを

主とした、趣味とボランティアで時間に追ひ廻されて過しています。

編物が好きでしたが現職でいる間はひまがなくて出来ませんでした。編物を初め、編物のNHKの先生に認められてNHK文化センターの講師をさせて頂く様になりました。私方教会へも、毎月十五六人の人が講習に来て下さいます。皆もう十年近い人達ばかりで、早く編めるすばらしいストレッチ編を教へて頂いてよかったなあと、皆よろこんで下さっています。

ボランティアでは、新市町更生保護女性会の会長を三期つとめさせて頂いて、丁度保護司の五十年と更生保護女性会の四十周年と有り、東京の武道館で県の代表として行かして頂き、天皇陛下御夫妻に感謝のお言葉を頂き、東京都知事からもねぎらいのお言葉を頂戴致しました。

日本全国更生保護女性会の最初の会長様・島津久子先生や、保護観察署の署長さんや、様々の方々の交流も出来て、中国地方から東京大会へ招かれて、二回も行く事が出来て、私しの布教日誌の一頁として、大切な思出の一こまです。

人様が勧めて下さった事を何でも素直に受けて、出来ても出来なくても会長に沿って精一杯つとめさせて頂いた事が、今日の姿だと思わせて頂きます。

現在は長寿会の女性部長としてお世話させて頂いております。

昔からの習慣で長寿会全員で観音様へ年一回参拝されるのです。小さなお堂に一杯で、外にゴザを敷いて、意味のよくわからない観音経を皆さんで読み御詠歌を唄って、何千年も続いて来た佛教には、かないません。

私方、広いく、教堂で参拝下さいと云いますがまだそこ迄は行きません。何とかお地場へお連れしたい想ひ一杯なのですが、何ヶ月経っても、別席人一人もならず、このまゝでは老人はだんぐと弱って行かれます。

若い後継者の布教意慾を願ひ、共に努力して、八十年祭・九十年祭・百年祭の勇みに勇んだ団参を今一度見たいものです。

「人が勇めば神も勇む」と教へられ、月々の祭典に、又団参にと、用木信者共々に勇んで、元一日に帰りたい一杯です。

### ◆こかん様に続く会

【対象】 中・高校生

【日時】 6月5日(土) 午後5時半 ~ 6日(日) 午後1時  
 【内容】 支部長様お話、ひのきしん、にをいがけ、お楽しみ行事等。  
 【参加御供】 ￥500

\*大勢の参加をお待ちしております。

◆**直属ひのきしん五日隊**第4次隊

【期 間】 6月11日～15日

◆**縦の伝道講習会**

【と き】 6月21日(月)

【と ころ】 笠岡大教会

【内 容】 少年会本部委員によるお話し  
「親から子へ、たすけ一条の心を伝えよう」  
「教会おとまり会と親子参拝の実施」

【対 象】 教会長夫妻、布教所長、隊育成委員長、よふぼく、信者

◆**婦人会伏せ込みひのきしん団参**

【日 時】 6月27日(日) 正午

【場 所】 西礼拝場、本部西境内地拡張整備ひのきしん現場

【内 容】 正 午 お礼参拝 (西礼拝場)  
午後1時 ひのきしん(午前中ひのきしんも可)  
(雨天、神殿回廊ひのきしん)

【対 象】 婦人会員

◆**青年会笠岡分会 伏せ込みひのきしん&別席団参**

【日 程】 6月27日(日) 9:00～14:00頃

【内 容】 こどもおぢばがえりおやさとパレード フロート製作作業  
※ペンキ等を使用する作業も予想されますので汚れてもよい服装  
でお願い致します

※詳細については下記各ブロック担当者までお願い致します

直轄1・2: 淺野明教 (大教会)、福 山: 藤本晴司 (西 村)

高 屋: 瀨良 昇 (高児島)、島 根: 門脇裕教 (島 根)

久 松: 中村真人 (久 松)、上 下: 高田一弘 (真 府)

府中市: 山田睦浩 (甲 井)。

◆**直属ひのきしん特別隊**

【期 間】 7月 1日～25日

◆**こどもおぢばがえり**

【期 間】 7月26日～8月4日(10日間)

【テ ー マ】 感謝、よろこび、ひのきしん

【申し込み】 1次: 5月1日～6月15日、最終: 7月20日までに  
少年会本部に日程計画書を添えて申し込みください。

【詰所受入ひのきしん】 7月25日～8月4日

\*期間中3日間、詰所中庭で模擬店を開きます。

\*今年も、一人でも多くの人に「こどもおぢばがえり」を勧め  
させていただきます。

\*中学生には「少年ひのきしん隊」を勧めましょう。

(各教区・支部にお問い合わせください)

◆**各行事に参加ご希望の方は、  
各ブロックの担当者にお申し込みください**

# 大教会だより

## II 辞令 II

立教167年4月16日付

### ◎登用

承事 上原澄雄

森本忠平

谷内伸自

準承事 高木昭祥

横山逸郎

上原志浩

上原志郎

田中隆之

山野弘実

婦人おつとめ奉仕者

森本富美子

中村満子

岡崎豊子

### ◎教会長資格検定講習会修了者

前期 立教167年5月14日終講

明石市 杉原智子

引野 谷屋賢三

### ◎本部食堂ひのきしん

自 立教167年5月1日  
至 立教167年5月15日  
仲條 福田和子



## ・原・稿・募・集・

### 内 容

- ①小随筆、②教会・布教所の独自の活動の紹介、
- ③俳句・和歌・川柳、
- ④教会行事開催後の報告記事 等々

### 字 数

1000字前後(800字~1200字)

題名・所属教会名・氏名(匿名可)を明記して下さい。  
俳句等は1句からでも結構です。

### 寄 稿 先

大教会内『かさおか』編集掛宛ドシドシご寄稿下さい。

### 三代会長様御夫妻・四代会長様年祭

去る、四月二十二日、午前十一時より、三代会長 上原繁雄様二十年祭・四代会長 上原郁雄様十年祭・三代会長夫人 上原くにゑ様十年祭が、世話人 島村廣義先生祭主のもと、大教会祖霊殿にて執り行われ、大教会役員・部内教会長らが参拝しました。

なお、これに先立ち、二月三日午前十時より、本部祖霊殿に於いて、同年祭がとめられ、島村先生祭主のもと、本部関係者・関係大教会の方々・上原家親族・家族が参拝する中、併せて、四代会長様の合祀祭も執り行われました。



この四月、平成の大合併の掛け声のもと我々町も郡から市へと変わつた。

それと同時に市長選・市議選ダブル選挙。地元選出議員の応援でモ一

大変！ それぞれの家から二・三日は会社を休んで交替で選挙カーに乗り込み必死です。私くしめも、三日程選挙カーの運転で朝八時から夜八時迄：

〇〇候補でございます。

〇〇候補が御挨拶にまいりました。

何卒よろしく、お願い申し上げます。

と連呼、連呼！ 手を振ってくださる人には車を降りて握手、握手、又握手それぞれの陣営共候補者共々体力勝負の感ありでした。

この数日間、関係者の一生懸命な姿、この中に身を置いていてなかなかいいものでした。結果としてトッパ当選だったと言う事もありましょうが！

さて、私達よぶくもこの度の投票日である立教百六十九年一月二十六日教祖百二十年祭に向け選挙戦も中盤、教祖党？の候補者の一人として一票でも多くの徳を？戴ける様頑張らしましょう！